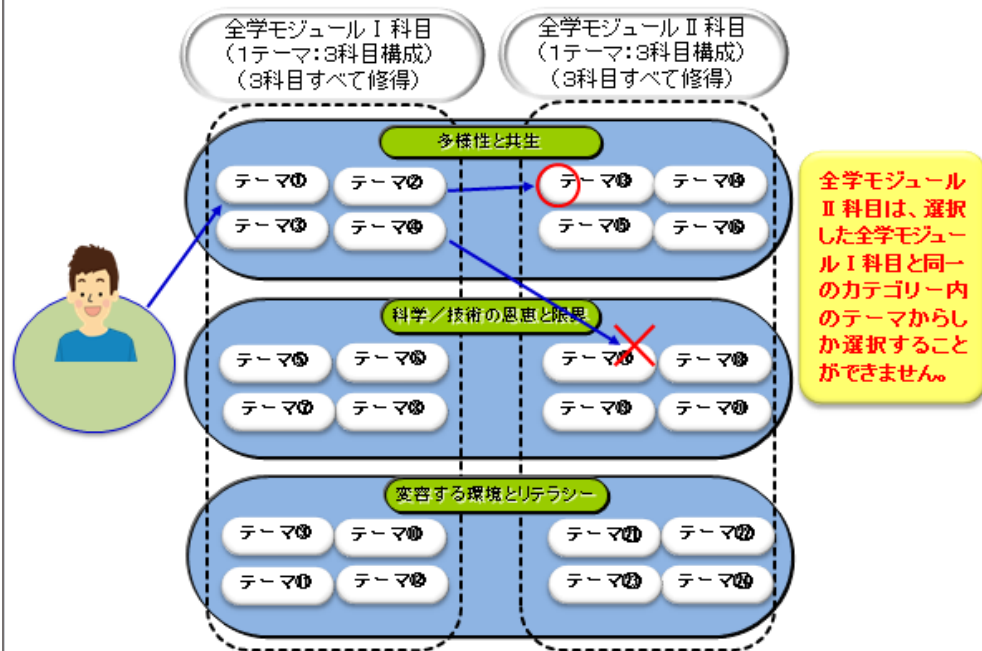


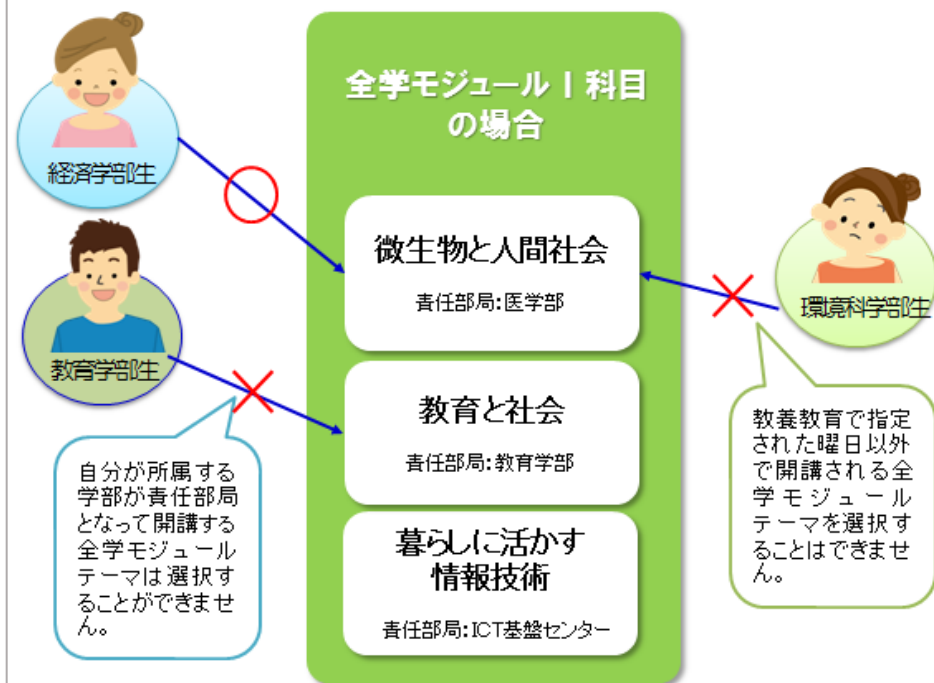
全学モジュールの履修の注意点①



1. 全学モジュール科目は、全学モジュール I 科目と全学モジュール II 科目で構成されています。
2. 1年生前期に本ガイドブック、説明会及びシラバス(授業計画書)を参考に、全学モジュール I 科目のテーマを選択します。1テーマ80名の定員数を設けていますので、申し込みが定員をオーバーした場合には、抽選が行われます。
3. 1年生後期に本ガイドブック及びシラバス(授業計画書)を参考に、全学モジュール II 科目のテーマを選択します。なお、1年生前期に選択した**全学モジュール I 科目のテーマと同一のカテゴリー内のテーマからしか選択できません**。1テーマ50名の定員数を設けていますので、申し込みが定員をオーバーした場合には、抽選が行われます。
4. 全学モジュール I 科目は1年生後期、全学モジュール II 科目は2年生前・後期で開講されます。全学モジュール I 科目及び全学モジュール II 科目はともに3科目開講され、3科目すべて修得する必要があります。
5. 決定した全学モジュール I 科目及び全学モジュール II 科目のテーマについては、**途中で変更することはできません**。

全学モジュールの履修の注意点②

教養教育の指定曜日
月・火・水のグループ(多文化、教育、経済、薬学、水産)の場合

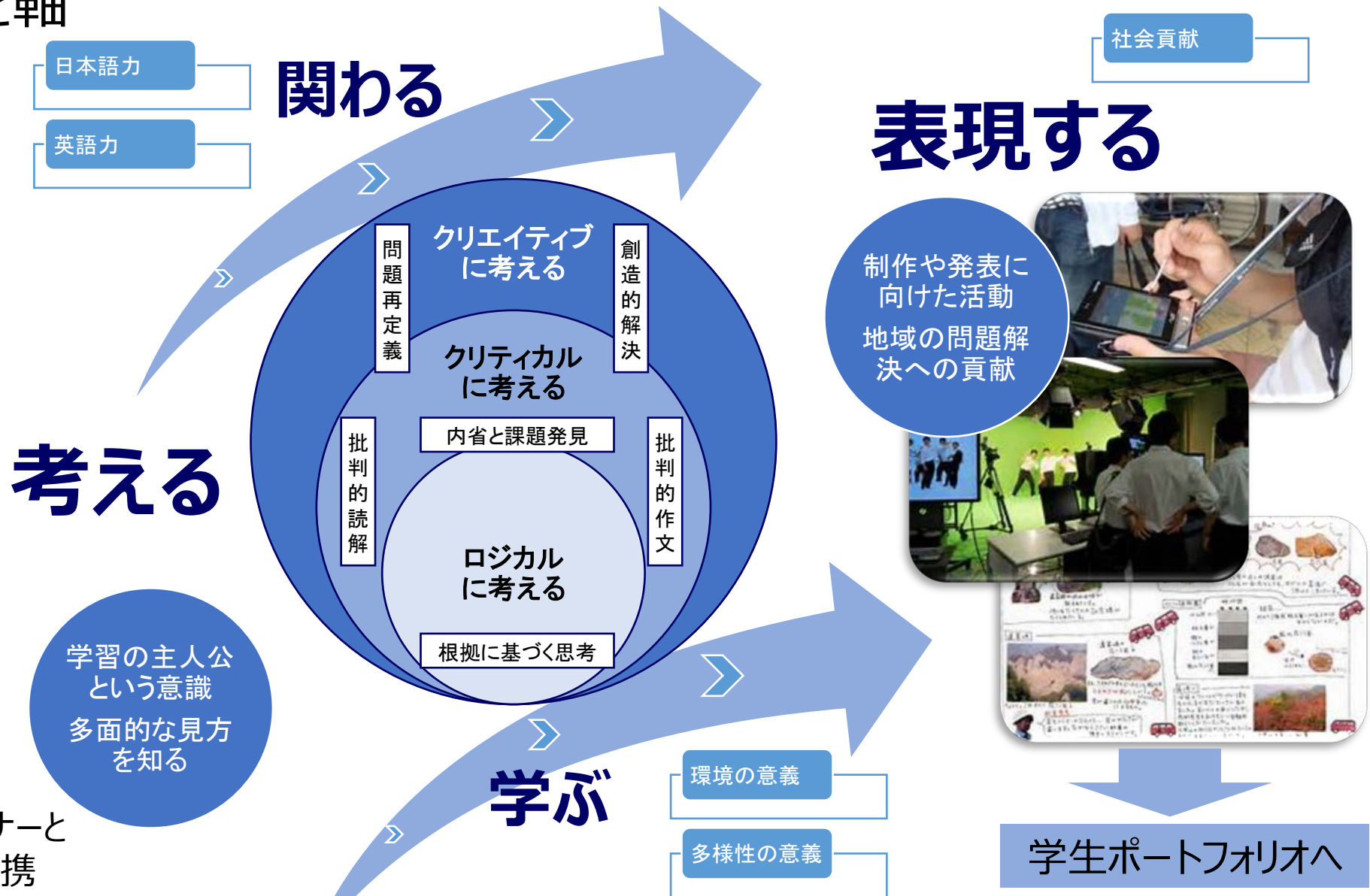


全学モジュールテーマについては、以下のとおり選択できないテーマがあります。

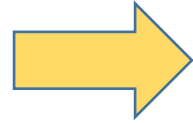
1. 自分が所属する学部が責任部局となって開講する全学モジュールテーマを選択することができません。
2. 学部毎に指定された教養教育を履修する曜日以外に開講される全学モジュールテーマを選択することはできません。(1年次では、多文化、教育、経済、薬学、水産は月～火、医学、歯学、工学、環境は木～金に開講されるテーマを選択することになります。)

P16以降の「全学モジュール科目案内」に記載してある対象学部を参照のうえ、選択を行ってください。

「考える力」を軸



読み・書き・討論
を通して



思考力をアップしていく



多面的思考

論理的思考

批判的思考

創造的思考

初年次前期
(初年次セミナー)

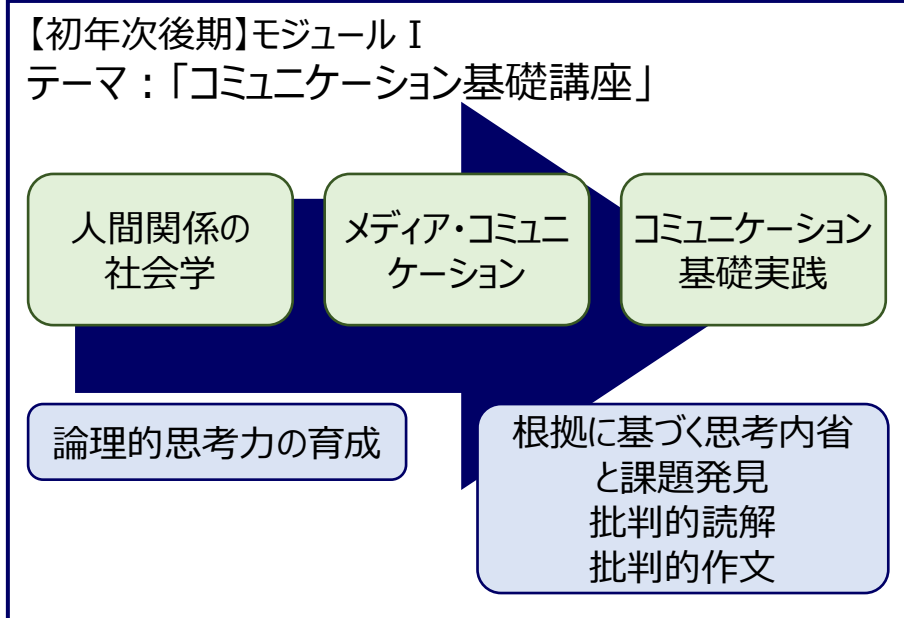
初年次後期
(全学モジュールⅠ)

2年次前期
(全学モジュールⅡ)

2年次後期
(全学モジュールⅡ)

全学モジュールの考え方

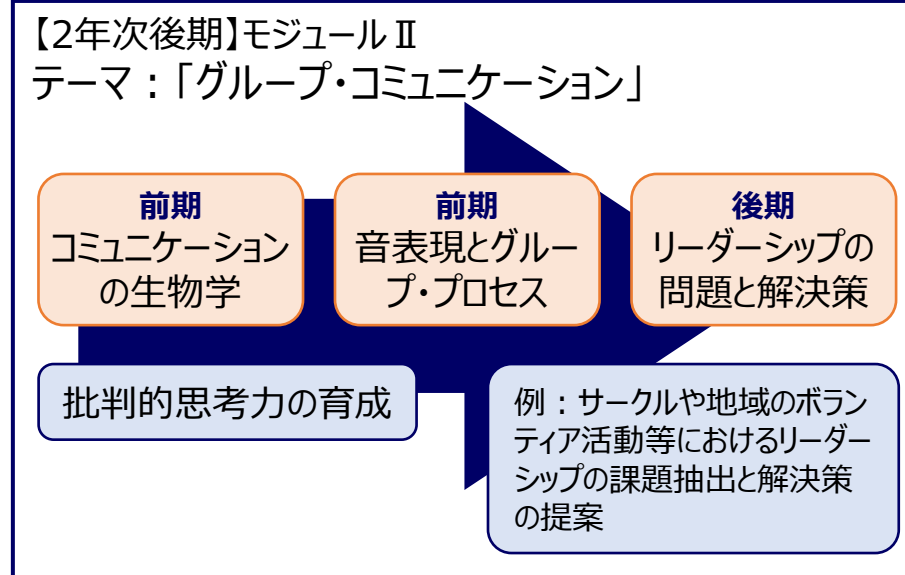
モジュールⅠ：論理的思考→批判的思考



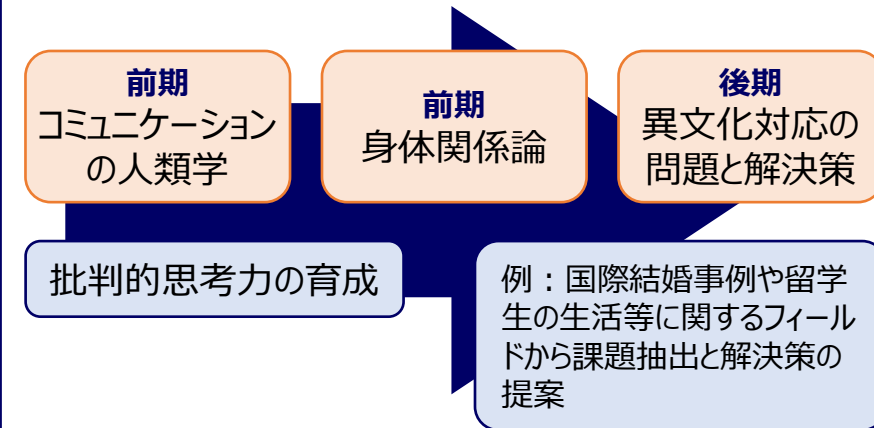
論理的思考の例：メディア報道に関して、まず時系列の事実と因果関係の推測とに分け、その上でレトリック表現や因果推論の誤謬を検討する。

批判的思考の例：性役割に関して、権威や社会通念による見方が今日の学問的知見とどの程度整合するかを問い、自らの性役割観を吟味する。

モジュールⅡ：批判的思考→創造的思考



【2年次後期】モジュールⅡ テーマ：「文化と対人関係」



カテゴリー	変容する環境とリテラシー		モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	17-A13 コミュニケーション基礎講座			
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	グループ・コミュニケーション		文化と対人関係	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部			
テーマ責任者	當山 明華	責任部局	大学教育イノベーションセンター	
趣旨	今日、コミュニケーション力は社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くの能力のなかでもその筆頭に挙げられています。他方で、我々は皆ヒトという生き物として、また特定の文化圏に生まれた者として、既に存在す			

カテゴリー	変容する環境とリテラシー		モジュール科目区分	全学モジュール II 科目
テーマ名	17-a22 文化と対人関係			
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部			
テーマ責任者	北村 史	責任部局	大学教育イノベーションセンター	
趣旨	<p>今日、コミュニケーション力は社会人基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くの能力のなかでもその筆頭に挙げられています。その一方で、人間は皆特定の文化圏に生まれ、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育っていきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。</p> <p>したがって、コミュニケーション力の向上には、普段当たり前になっている自分のコミュニケーション習慣を自覚化し、その上で様々な文化的背景をもった人々とも機能的に関わることのできる、柔軟な対応力を身につけることが不可欠です。本科目群では、文化人類学、身体心理学、異文化コミュニケーション学からの学際的視点でその課題にチャレンジします。</p>			

全学モジュールの 目標および授業編 成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考 え る 力	関 わ る 力	表 現 す る 力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
人間関係の社会学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア・コミュニケーション基礎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
コミュニケーション基礎実践	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎

大学教育では知識基盤社会をたくましく生き抜いていくためのジェネリックスキル（汎用的技能）の習得が必要となっています。

学生ポートフォリオ利用の手引き

		段階	1	2	3	4	5
学ぶ力	自主的探究	自分にとって必要な情報が何かを説明できる	必要な情報を、図書館などを利用して探索することができる	意義や価値を感じる課題を自分で見つけ、必要な情報を適切に収集・分析することができる	自分で選んだ課題について関連した情報を広く収集・分析し、粘り強く探究することができる	自分で選んだ課題を深く探究し、関連した情報を広く収集・分析したうえで、探究の成果を的確にまとめることができる	
	自己成長志向	自分の成長課題を把握している	自分の成長課題を理解し、それについて人任せにせず責任意識をもっている	自分の成長課題を理解し、これまで習得した知識・技能・態度を総合して自己成長に活かすことができる	自分の成長課題を理解し、これまで習得した知識・技能・態度を総合しながら、継続的に自己成長を進めることができる	自分の成長課題を理解し、習得した知識・技能・態度を総合するとともに常に新たな経験に挑戦しながら、自己成長を進めている	
	批判的思考	自分の考えの前提を探ることができる	自分が錯覚していたり思い込んでいたりする可能性に注意を払っている	得られた情報や自分の考えについて、論理的に検討することができる	自分の考えやメディアの報道その他の情報を、距離をおいて批判的に検討することができる	様々な情報や意見について、距離をおいて批判的に検討し、的確に問題点を伝えることができる	
関わる力	相互啓発志向	他者と適切に関わることができる	異なった文化や価値観から新たに学ぶことができる	異なった文化や価値観から新たに学ぶだけでなく、異なった考えをもつ他者でも共感的に理解することができる	異なった文化や価値観から新たに学ぶだけでなく、異なった考えをもつ他者でも共感的に理解し、柔軟に協働することができる	異なった文化や価値観から積極的に学び、異なった考えをもつ他者と協働するなかで相互に深く啓発し合うことができる	
技能・表現	自己表現	促されれば、自分の意見を表現することができる	自ら進んで意見を表現することができる	自分の意見を積極的に表現するとともに、他者との意見交換を建設的に行うことができる	自分の意見を積極的に表現するとともに他者との意見交換を建設的に行い、必要があれば自然や社会の出来事を記号や数式で表現することができる	言葉や記号、数式などを駆使して自分の意見を積極的に表現し、他者との建設的な意見交換を通じて掘り下げた議論を行うことができる	
	行動力	新たな行動に踏み出すことができる	失敗をおそれずに意義のある行動を起こすことができる	意義ある行動の目標達成に向けて、計画立てて取り組むことができる	意義ある行動の目標達成に向けて、計画立てて取り組むとともに、必要があれば他者に働きかけ巻きこむことができる	意義ある行動の目標達成に向けて、リーダーシップと計画性を発揮して取り組むとともに、状況に応じて柔軟に対応することができる	

ホーム > 修学案内

- 修学案内
- ▶ 受講情報
- ▶ NU-Webシステム
- ▶ 出席管理システム
- ▶ 長大生のための学びのガイダンス
- ▶ 休講関連情報
- ▶ 教養教育
- ▶ 学部教育
- ▶ 大学院
- ▶ 留学・国際交流 
- ▶ NICEキャンパス長崎 
- ▶ ラーニング・ティップス 
- ▶ CALLシステム 



長大生のための学びのガイダンス

- ▶ 教養教育 <14分>
- ▶ アクティブラーニング <13分>
- ▶ 学生ポートフォリオ <20分>

※ポートフォリオ利用の手引き
※ポートフォリオワークシート

2017年3月24日 平成29年度教養教育行事予定について

以下をどのように感じますか

学生Aの学習

教員から提供される知識を批判的に吟味することなくノートに書きとめる。試験が近づくと、ひたすら暗記し、試験にのぞむ。試験が終了した後に、「終わった。もうこの分野について覚えなくていいんだ」とつぶやく。そして、1週間後には記憶した知識の大半を忘却する。

学生Bの学習

受講している授業は、流行のアクティブラーニング型。授業のテーマに関連した議論、フィールドワーク、学生の発表などさまざまな活動が盛りだくさん。活動が苦手な学生はそもそも履修しない選択科目であるためか、受講生の満足度は高い。しかし、授業終了時に「いろいろ活動して楽しかった。けど、何が身についたのだろうか」とつぶやく。

大学教育

- ◆ 大学教育については、学生が、高等学校教育までに培った力を更に発展・向上させるため、個々の授業科目等を越えた大学教育全体としてのカリキュラム・マネジメントを確立する（ナンバリングの導入等）とともに、**主体性を持って多様な人々と協力して学ぶことのできるアクティブ・ラーニングへと質的に転換**する。

「主体性・多様性・協働性」を育成する観点

大学教育を、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、**学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見いだしていくアクティブ・ラーニングに転換**し、特に、少人数のチームワーク、集団討論、反転授業、実のある留学や単なる職場体験に終わらないインターンシップ等の学外の学修プログラムなどの教育方法を実践する。

大学教育の質的転換の断行

大学教育においては、高等学校教育において培われた「生きる力」「確かな学力」を**更に発展・向上させるよう**、教育内容、学習・指導方法、評価方法、教育環境を抜本的に転換する。

アクティブ・ラーニングという言葉

「教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である」

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」、中央教育審議会答申（平成24年8月28日）

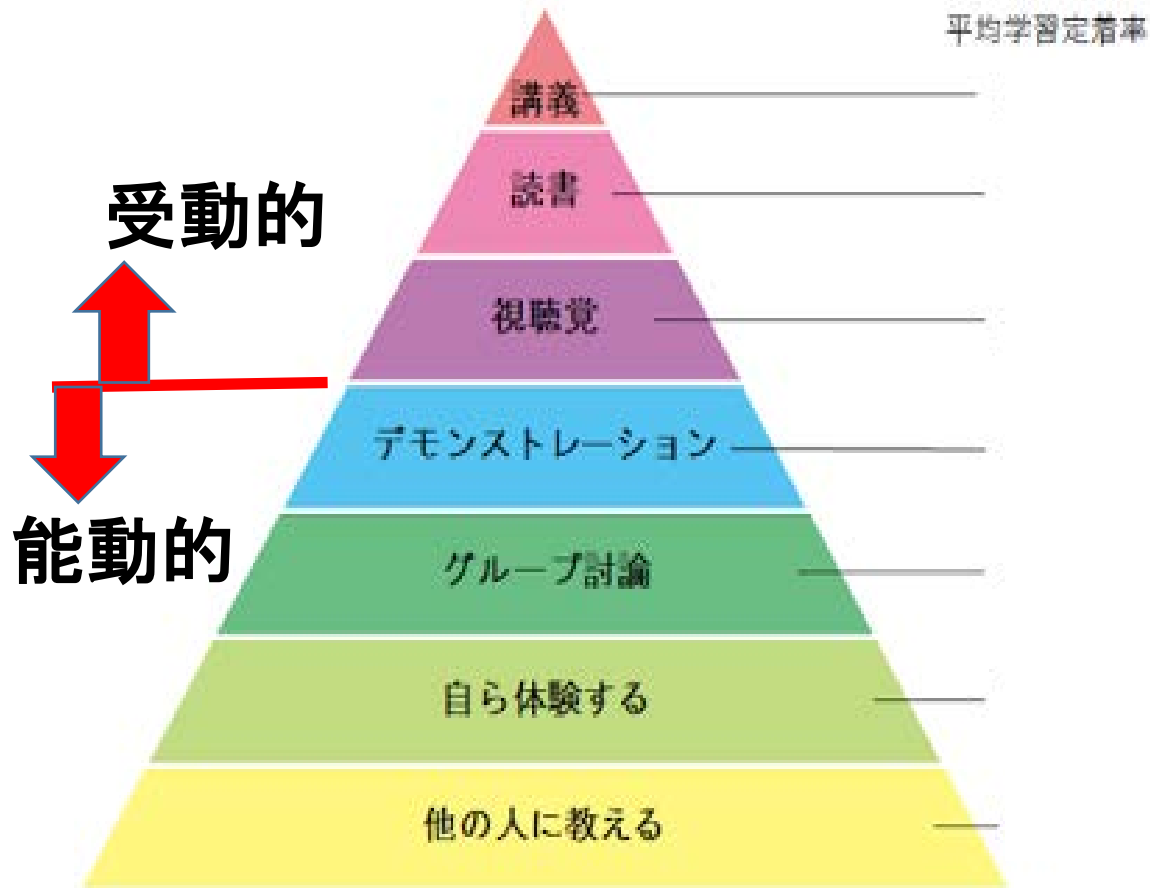
一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、**あらゆる能動的な学習**のこと。

能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる**認知プロセスの外化**を伴う

京都大学：溝上慎一

教育方法ではなく、学習論であるということ

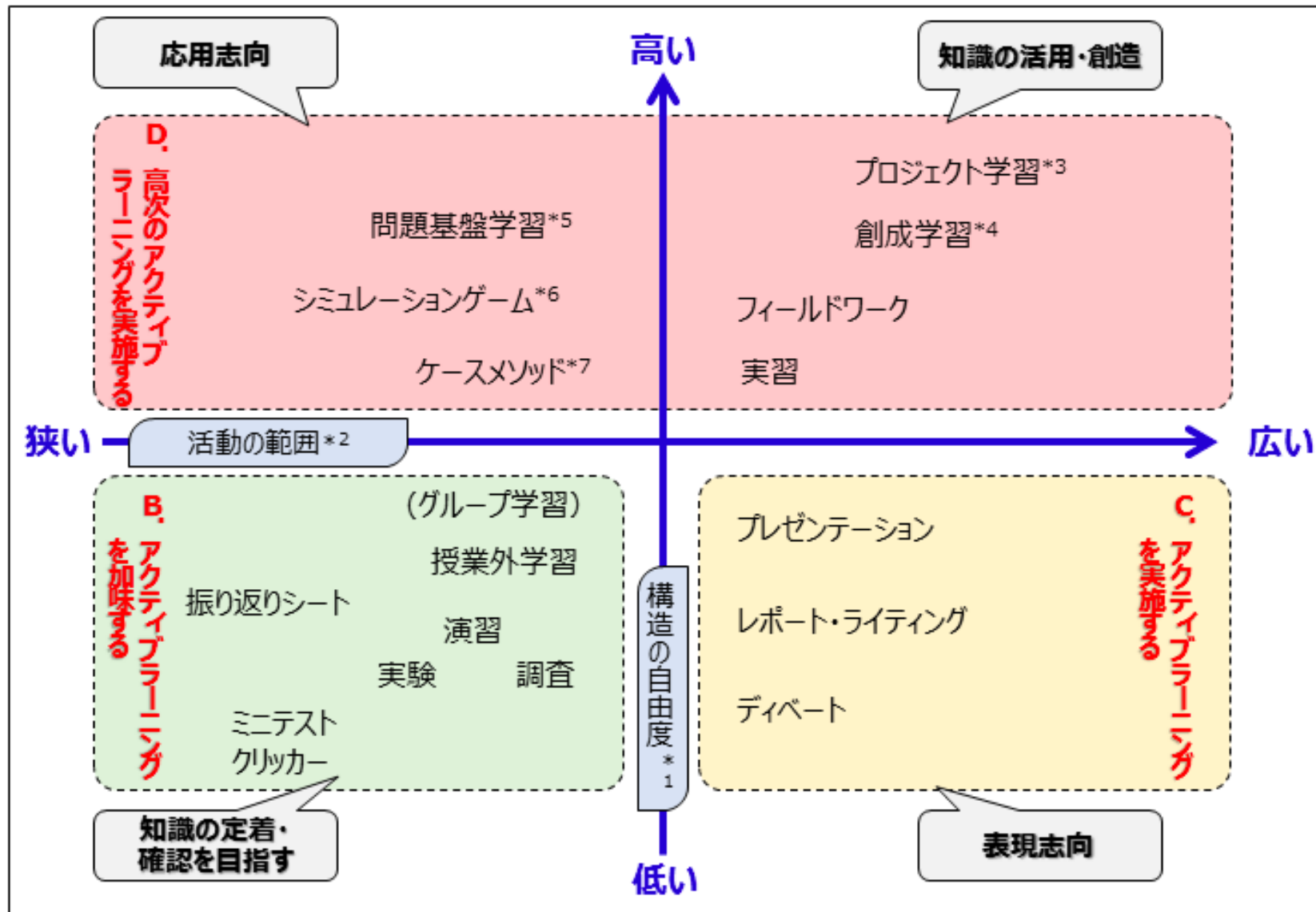
学習のピラミッドとアクティブ・ラーニング



- ① 聞いたことは忘れる。
- ② 聴いて見たことは少し思い出せる。
- ③ 聴いて見て、質問し他の人と議論したことは理解できる。
- ④ 聴いて見て議論して実践・体験したことは知識と技能になる。
- ⑤ 他人に教えたことには習熟する。

大学でのさまざまなアクティブラーニング型授業の手法

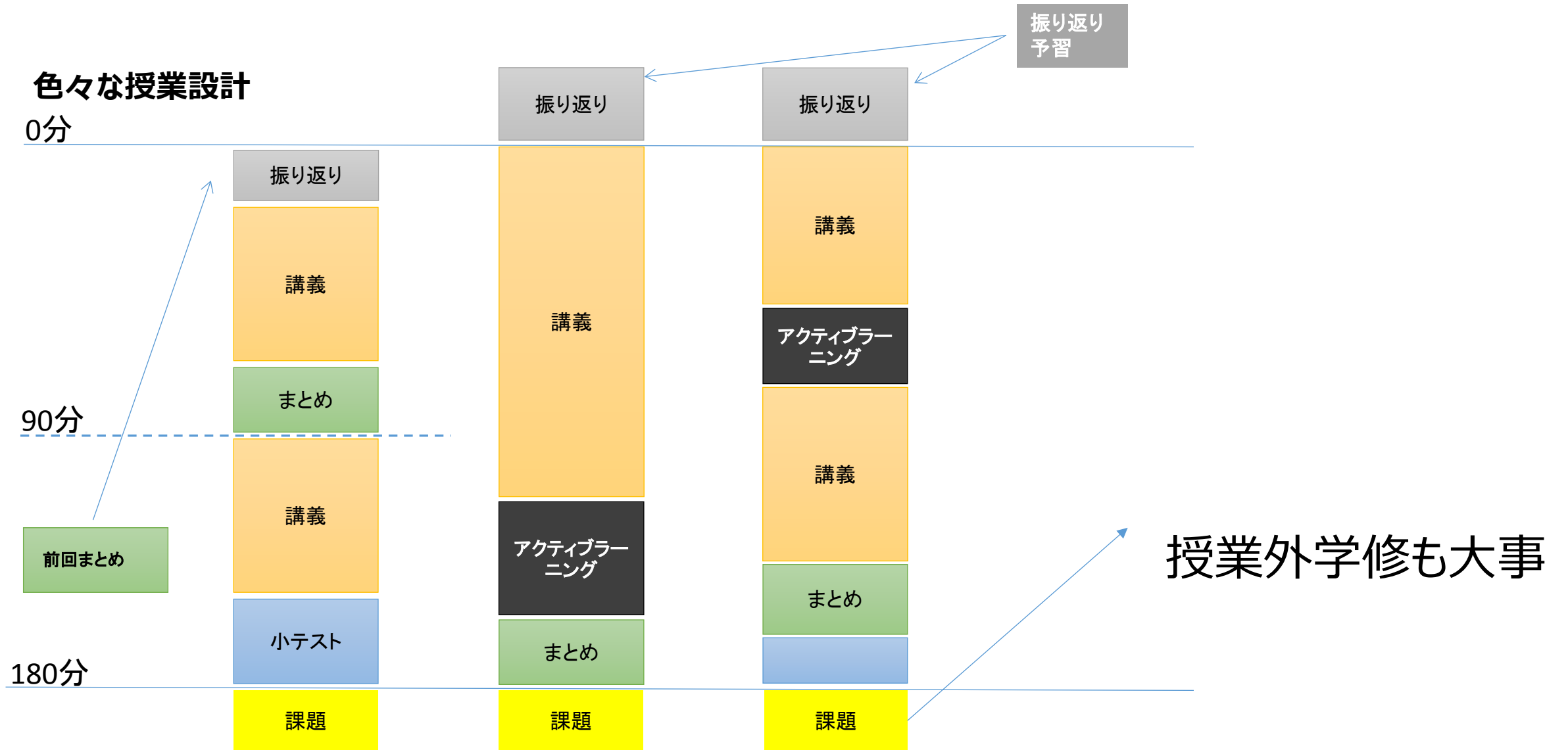
【様々なアクティブラーニング手法（例）】



シラバスの中のレベル

協働的の度合い	アクティブラーニングレベル	活動の例
低い	A. 行わない	教員の講義を学生が聴くのみ
	B. 加味する	小テスト、クイズ、振り返りシート
	C-1. 実施する（授業時間の1/3未満）	ペアワーク、グループワーク、調べ学習、ディスカッション、プレゼン、ディベート
	C-2. 実施する （授業時間の1/3以上2/3未満）	ペアワーク、グループワーク、調べ学習、ディスカッション、プレゼン、ディベート
	C-3. 実施する（授業時間の2/3以上）	ペアワーク、グループワーク、調べ学習、ディスカッション、プレゼン、ディベート
高い	D. 高次のアクティブラーニングを実施する	プロジェクト学習（Project Based Learning）、問題基盤型学習（Problem Based Learning）、シミュレーション

クォーター制における16回（1日2コマ×8週）の授業展開の例



アクティブ・ラーニングのポイント

○グループワーク **≠** アクティブ・ラーニング

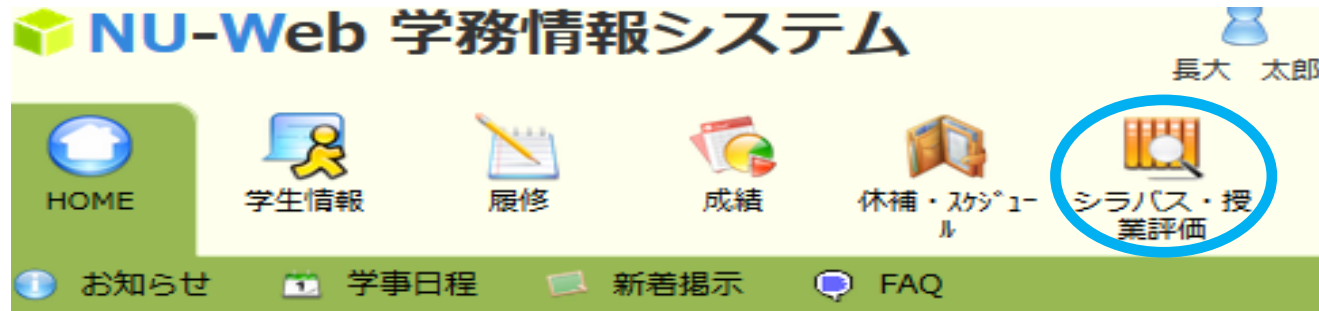
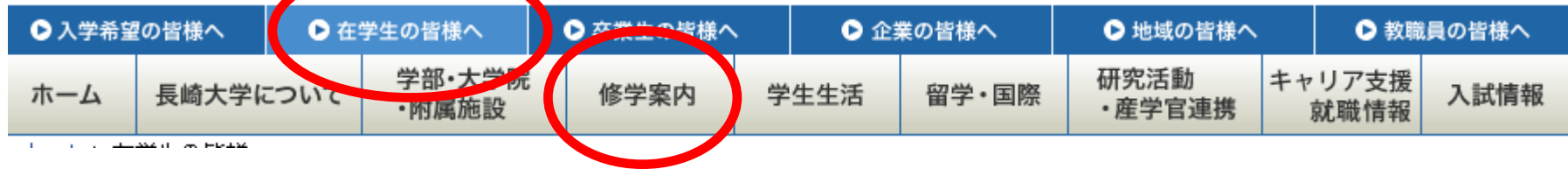


内化→外化->内化->.....の繰り返し

大学では、「学習」ではなく「学修」

内化→外化->内化->.....の繰り返し

大学では、「必要な情報は自分で取得」



学生の主体性
やる気



授業アンケートについて

オリエンテーション等での配布資料

学生のみさんへ

「授業アンケート」を通じた学修/授業/教育改善について

長崎大学 大学教育イノベーションセンター

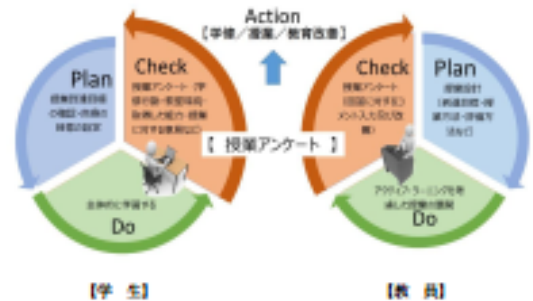
長崎大学では、学生のみさん自身の学修改善、授業担当教員の授業改善、学部や大学全体の教育改善に役立てることを目的に、これまでの「学生による授業評価」を「授業アンケート」に変更しました。このアンケートは、みなさん自身の授業へ取り組み姿勢と得られた学修成果に対する自己評価、施設・設備環境ならびに授業改善のための意見記述などから構成されています。

大学では、学生は知識を受容するだけの受け身の存在ではなく、授業という場に参加し、教員や他の学生とともに新たな知を授受していく主体的な存在です。この点で、授業の一参加者である学生のみさんにも、よりよい学び、よりよい教育を教員とともに作り上げていく責任があります。

本学が実施する「授業アンケート」は、学生のみさんが各授業で「良い学びができたかどうか」を振り返り、自己の成長につなげるためのものです。同時に、授業や教育のあり方に対する中立的意見を聞くことで、教員の授業改善、大学の教育改善につなげることを意図しています。

回答は、それぞれの授業時間中（原則、期末（クォーター制で開講する科目にあってはクォーター末）に実施されます）に授業担当者からのアナウンスに沿って、NUWeb（学修情報システム）からアンケートにアクセスし、記入してください。

授業アンケートの各設問項目は裏面の通りです。（このほか、各学部等による独自の設問が準備されている場合があります。）



- ① 授業アンケートは、マージンシート方式ではなくNUWebを利用したWeb方式（実質匿名）で実施します
- ② 授業アンケートの回答は、学生個人ごとにデータとして蓄積されます。
- ③ 授業アンケートの回答が成績評価に影響することは一切ありません。
- ④ 5人以上のクラスでは、回答はすべて匿名化または統計的処理を行ったあと、授業担当教員に伝えられます。その他、誰がどの回答をしたかは絶対に知らされません。
- ⑤ 5人以下の少人数クラスでは、匿名性の担保のため、原則として回答結果は授業担当教員にも公開しません。ただし、学生からの要望があった場合には、授業担当教員に匿名で公開します。
- ⑥ 授業アンケートの統計とそれに対する授業担当教員からのコメントは、大学と各学部・研究科のウェブサイト、各種冊子体でも公開します。ただし、授業改善に関する自由記述欄の回答は、授業担当教員にのみ公開されます。
- ⑦ 授業アンケートの結果は、本学の教育改善を目的に、学生個人の他のデータと合わせて分析・活用されます。この目的以外で利用されることはありません。

授業アンケートの設問項目（全学共通項目のみ）

I. 総合的反應
① 総合的にみて、あなたはこの授業に満足していますか。5段階で示してください。
II. この授業でのあなたの学修への意欲や態度について
② シラバスをよく読んで履修登録しましたか。
③ この授業でどの程度の成績を目標に履修しましたか。
④ 教員に指示された課題に意欲的に取り組みましたか。（予習やレポート、授業関連の読書、講義物等を含む）
⑤ 教員に指示された課題について授業時間以外の典型的な週平均学習時間はどれくらいでしたか。（予習やレポート、授業関連の読書、講義物等を含む）
⑥ 授業を履修したことで履修され、関連する事項について調べたり、考えたり、勉強したりすることをどの程度頻りにしましたか。
⑦ 他の学生との協働作業やディスカッション等に積極的に取り組みましたか。
III. 授業を通して他けた可能性のある汎用的能力
⑧ この授業を通して、あなた自身の行動や態度は変化しましたか。（あてはまるものすべてを選択）
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい知識・技能が身についた（語学力を含む）。 ・論理観が身についた。 ・自分で調べたり、勉強したりするようになった。 ・考えやものごとの根拠について論理的に考えるようになった。 ・計画的に物事を進めるようになった。 ・自分の意見を表現するようになった。 ・ある事柄について他者と意見を交換するようになった。 ・真なった考えをもつ他者とも柔軟に協働するようになった。 ・多少の問題があってもやるべきことをやり遂げるようになった。 ・集団やグループの中で自分の役割を積極的に果たすようになった。 ・社会的な問題について意識するようになった。 ・その他 ・とくに何も変わらなかった
IV. 教室環境について
⑨ この授業を受けているときに教室や環境で困ったことがあれば、書いてください。（空調設備や音響設備のほか教室内に設置されている PC、Wi-Fi、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボード、教員の動き・声など）
V. 授業について
⑩ この授業で良かった点を書いてください。
⑪ この授業で改善した方がよいと思う点を書いてください。



ポスターの掲示参照

学びと向き合うことが、わたし自身を成長させる！

長崎大学で 新しい 授業アンケートが 始まります。

Q. 新しい授業アンケートの目的は何ですか？
⇒自分自身の学びを振り返ること、そして授業や大学教育をよりよいものにするために教員と大学に意見を伝えることです。

Q. これまでの「学生による授業評価」も続きますか？
⇒新しい「授業アンケート」はこれまでの「学生による授業評価」にかわって実施するものです。実施方法は、これまでのマークシート方式からWeb方式に変わります。

Q. 回答は成績評価に影響しますか？
⇒成績評価には一切影響しません。学生からの回答は匿名化・統計的処理をされるため、授業担当教員は誰がどの回答をしたかについて特定できません。

長崎大学 大学教育イノベーションセンター
「授業アンケート」の詳細情報⇒<http://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/student/esq29.html>

<http://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/student/esq29.html>

HOME センター概要 組織運営 各部門の概要 入学希望のみなさまへ 在学生のみなさまへ 教職員のみなさまへ

HOME > 在学生のみなさまへ

- 在学生のみなさまへ
- ▶ [授業アンケートが変わります。](#)
 - ▶ [学びのガイダンス](#)
 - ▶ [ラーニング・ティップス](#)
 - ▶ [NU-Webシステム](#)
 - ▶ [LACS](#)
 - ▶ [CALLシステム](#)
 - ▶ [NICEキャンパス](#)
 - ▶ [NU-Naviシステム](#)

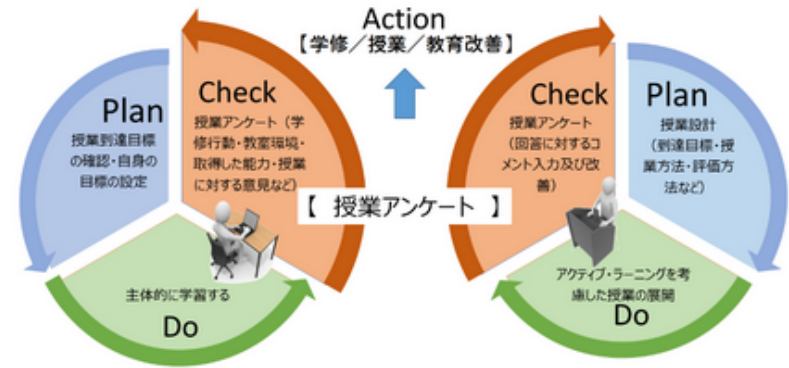
「授業アンケート」を通じた学修/授業/教育改善について

長崎大学では、授業の目標・内容・方法を継続的に改善するため、「学生による授業評価」と呼ばれるアンケート調査を実施し、授業担当者がみなさんの授業への感想等を把握できるようにしてきました。

平成29年度より、学生のみなさん自身の学修改善、授業担当教員の授業改善、学部や大学全体の教育改善に役立てることを目的に、これまでの「学生による授業評価」を「授業アンケート」に変更します。

このアンケートは、みなさん自身の授業へ取り組む姿勢と得られた学修成果に対する自己評価、施設・設備環境ならびに授業改善のための意見記述などから構成されています。

大学では、学生は知識を享受するだけの受け身の存在ではなく、授業という場に参加し、教員や他の学生とともに新たな知を模索していく主体的な存在です。この点で、授業の一参加者である学生のみなさんにも、よりよい学び、よりよい教育を教員とともに作り上げていく責任があります。本学が実施する「授業アンケート」は、学生のみなさんが各授業で「良い学びができたかどうか」を振り返り、自己の成長につなげるためのものです。同時に、授業や教育のあり方に対する率直な意見を聞くことで、教員の授業改善、大学の教育改善につなげることを意図しています。回答は、それぞれの授業時間中（原則、期末（クォーター制で開講する科目にあつてはクォーター末）に実施されます）に授業担当者からのアナウンスに沿って、NU-Web(学務情報システム)からアンケートにアクセスし、記入してください。



主な変更点について整理します。

■ H29年度からの「授業アンケート」

変更のポイント：

- ① 新しい授業アンケートでは学生の自己評価と授業改善を目的とします。
- ② マークシート方式ではなくNU-Webを利用したWeb方式（実質記名）で実施します。
- ③ 質問項目は、授業へ取り組む学生自身の態度、得られた学修成果に関する自己評価、授業改善のための意見収集などから構成されます。



【授業アンケート】一般アンケートへ 凡例：未→未回答, 保→一時保存, 済→回答済み

タイトル	中間実施期間	期末実施期間	中間状態	期末状態
授業アンケートテスト① (前期科目/教員 一部/ 金1, 金2)	2017/1/12 - 2017/1/26	2017/3/12 - 2017/3/27	済 集計結果	-
授業アンケートテスト② (前期科目/教員 一部/ 金1, 金2)	2017/1/12 - 2017/1/26		未 回答受付中	
授業アンケートテスト③ (前期科目/教員 一部/ 金1, 金2)		2017/3/12 - 2017/3/27		保 回答受付中
授業アンケートテスト④ (前期科目/教員 一部/ 金1, 金2)	2017/1/12 - 2017/1/26	2017/3/12 - 2017/3/27	未 非公開	済 回答受付中



動画での説明（6分30秒）

